

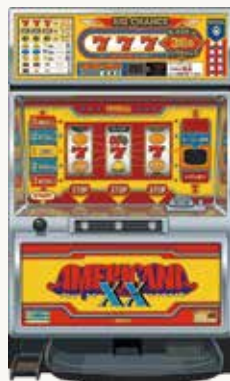
1992年に4号機が登場。3号機までは1メーカーにつき2機種までしか販売が許可されなかったが、4号機からは何機種でも販売できるようになった。リプレイ・オートリセット・液晶演出など、現在のパチスロの基礎が次々と確立されていった。この4号機時代に何が起きたのかは、次回以降で詳しく掘り

下げる。ひとまず第1回は、「完全確率すらなかった時代があった」という出発点の確認まで。設定6の機械割が150%を超え、1日に5万枚規模の出玉が可能な台も登場したと言われる——そんな時代の序章が、ここから始まる。

パチスロ前史年表 0号機～4号機黎明期



0号機：スーパーセブン
高砂電器産業初のパチスロマシン。



1号機：アメリカナXX
1985年にユニバーサル販売からリリースされた1号機。

※号機の区分は風営法の遊技機規則改正ごとに変わる「年号」のようなもの

※本稿に記載の数値・台数等は複数ソースで確認したのですが、0号機～3号機時代は記録が断片的で諸説ある箇所を含みます。参考値としてご覧ください。

【次回予告】第2回 最初の鉄槌～規制という名の転換点、業界が震えた日～
3号機の裏モノ問題と、それを受けた業界への鉄槌を追う。

スペックの履歴書

～パチスロ規制進化の全記録～

SPEC ARCHIVES...Chronicles of Slot Regulation

～はじめに～

レバーを叩くたびに抽選される、あの一瞬の緊張感。それを生み出す「確率」と「出玉」のルールは、40年かけて何度も書き換えられてきた。この連載では、パチスロのスペックがなぜ今の形になったのかを、規制の変遷という軸で一本につないでいく。全12回、懐かしい人も、知らない世代も——数字の裏にある時代の空気を、一緒に辿ってほしい。

第1回：狂乱の黎明 ～確率も出玉も、誰も止めなかった時代～

「今日は何枚出るかな」ではなく、「今日は何枚飲まれたら当たるかな」——そんな感覚でリールを回していた時代が、確かにあった。

確率が決まっていなかった頃

Spec Archives

パチスロという遊技機が日本に根を下ろしたのは、1980年のこと。初の市販パチスロ機のひとつとして「バルサー」が誕生し、その後1982年に保通協が設立、1984年には風営法が交付された。

ただし、この風営法が施行されたのは1985年2月13日で、このとき初めてパチスロに全国统一の規格が定められた。それ以前の機種は、各都道府県の公安委員会の許可があれば設置できるという、地域によってバラバラのルールで動いていた。

この法整備以前の機種が、後に「0号機」と呼ばれるものだ。0号機の時代に何が起きていたか。「吸い込み方式」と呼ばれるシステムが主流で、規定の枚数を飲み込ませないとボー

ナスが抽選されなかった。小役を意図的に取りこぼす「小役ハズシ打法」が基本戦略となり、良いモードに移行すれば浅い枚数で当たりやすく、悪いモードだと延々と飲まれ続けるという連チャン性があった。

今で言う完全確率ではなく、投入枚数と内部モードが絡み合う、ある意味で荒々しいゲーム性だった。プレイヤーは「台の機嫌」を読もうとした。何百枚飲まれたら動き出すのか、今日のこの台はどのモードにいるのか——そういう読み合いが、当時の「攻略」の正体だった。勝つというより、台と交渉するような感覚と言えいいだろうか。記録が少ない時代だけに詳細は諸説あるが、あの独特の緊張感だけは、経験者の証言に共通して残っている。

1985年——法整備という「ルール設定」

Spec Archives

1985年に法整備されたことで1号機が登場し、最大のポイントはBIGが搭載されたことだった（純増約360枚）。それまでの0号機にはREGしかなかった。ただし吸い込み方式はまだ生き続けており、射幸性を抑えるより「法のもとの営業できる枠組みを作る」ことが優先された時代だったとも言える。

転換点は1988年の2号機登場だ。ボーナスの抽選方法が完全確率方式に統一され、吸い込み方式が全廃された。クレジット機能も採用され、ゲーム性が格段に向上した。

「完全確率」——この言葉が初めてパチスロに持ち込まれた瞬間であり、現在のパチスロの原型が生まれた瞬間だ。

これがプレイヤーにとって何を意味したか。「台の機嫌を読む」必要がなくなった。何枚飲まれようと、次の1ゲームで当たる確率は常に同じ。理不尽から公平へ——とはいえ、長年「交渉」としてスロットを打ってきた古参プレイヤーの一部には、この変化が物足りなさとして映ったとも言われている。パチスロが「読むゲーム」から「待つゲーム」に変わった瞬間でもあった。

続く1990年の3号機では、2号機の射幸性が高すぎるとして集中役の禁止などが加えられた。この3号機から採用された4.1秒のウェイトは、現行スロットにも受け継がれている。